

校
 <令和3年度実施計画（報告）>

番号	取組	取組の説明	期待できる効果	評価指標	評価	分析・課題
1	探究コーディネーターの設定	既存の校務分掌から独立した役割を設定し、本校における「総合的な探究の時間」の企画・運営についてリーダーシップを取らせる。	既存分掌の業務に捕らわれることなく効率的に業務に当たることができる。	探究コーディネーターを設定する。	A	キャリア教育と結び付け進路課との関連を想定したが、教育全般を意識し進路課から完全に独立させる。
2	学校運営協議会との連携	各分野の有識者からのアドバイスを受け、グローバルハイスクールの方向性を定める。	教員以外の人々の考え方や物の見方、進め方を取り入れることができる。	協議会を4回程度開催する。	A	外部の有識者から有意義なアドバイスをいただいた。次年度も継続して実施する。
3	タイ王国シリントン学校等との交流、訪問準備	スカイプ等オンラインでの交流を行うことと並行して、令和4年度のシリントン学校訪問の計画を立案する。	現代の世界の狭さを体感することができる。訪問に向けて生徒の心の準備ができる。	交流を3回以上実施、訪問の案内文書が完成する。	B	オンライン交流は4回実施できたが、コロナで先の見通しが立たず、訪問の計画までたどり着けない。
4	浜北国際交流協会等との連携	コロナ禍における国際交流の在り方について可能性を探る。	国際交流の新しい考え方・取り組み方について気づくことができる。	協会等との会合を1回以上持つ。	A	新しい取組について提案を受けた。次年度は実際の活動に繋げたい。
5	常葉大学との連携	常葉大学が行っている地域貢献活動のうち、本校で取り入れることができる活動に取り組む。	本校における地域貢献活動の取っ掛けができる。	大学との会合を3回以上持つ。	A	1年生の探究の時間に、「若者が住みやすい町づくり」について、学生と協働活動（書面アドバイス）を行った。来年度は対面で行いたい。
6	地元自治体等との連携	地元自治体職員からアドバイスを受け、地域課題への取り組み方について検討を行う。	本校独自の地域貢献活動を模索するきっかけができる。	地元自治体職員等との会合を1回以上持つ。	A	人脈や取り掛かる糸口が構築できた。実際の取組に繋げていきたい。
7	1部活1ボランティア活動	部活動単位で地域貢献活動を行う。	地域貢献活動の様々なかたちを生徒に示すことができる。	半数以上の部活動がボランティア活動に取り組む。	C	コロナ禍で実際の活動は難しかった。ボランティア・交流活動に関して情報を提供できるよう動き始めたので、形にしていきたい。
8	地元幼稚園等との連携	1年生全員が幼児保育体験を行う。	地域の課題に気づくきっかけになることが期待できる。	保育体験実習を1回行う。	A	幼保だけでなく、地域の産業や職業人との交流ができた。今後も充実させていきたい。
9	ネット依存対策プログラム	外部団体（青少年ネット教育アカデミー）の指導を受け、生徒個々が自らの生活について考える。	生徒個々が自らの生活を見つめ直すことで、必要な家庭学習の時間を確保することができるようになる。	プログラムを実施する。	A	分析結果を保護者とも共有することにより、家庭との協力関係を高めることができた。継続したい。
10	先進校視察	グローバル的な教育を推進している学校や探究活動が充実している先進校の視察を行う。	より効果的・効率的な運営について検討することができる。	先進校視察を3回以上行う。	A	様々な取組を知ることができた。本校の取組をより深めるため、更に多くの学校の様子を知りたい。

※評価 A：100%（以上）達成 B：80%以上達成 C：60%以上達成 D：40%以上達成 E：40%未満